患者が変われば医療が変わる
医療が変われば地域が変わる

島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、Iターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される（ガイアの夜明けで放映）。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第46回 患者中心の医療の目指す先

医師向けチェックリスト作成

今年1月、東京でFFJCP（がん患者会会議）が開催された。全国各地から患者会56団体101名が参加。毎年参加団体が増えている。今回のテーマは「新しい展開：新しいがん医療と患者参画を考える」。内容については、患者プログラム企画委員をつくり、事前に会議にて内容を創り上げたものだった。参加者の3分の2が新メンバーで世代交代が見られた。グループ発表と全体会議を総括する。

「長生きすれば、病人が増え独居老人宅や老々介護宅が増える」

「施設に入りたくても空きはなく、入れても遠方しかない」

「新薬の開発に医療者が追いついていない」

「承認薬を1年以上使わないでいる地方の病院」

「がんになって初めて患者を理解したという医療者」

「診察中の医療者とがんサロンを支援する医療者は意識が違う」

なかでも目新しかったのは「医師向けチェックリスト」。参加していたアメリカ人から聞いたが、医師の話をしっかりと聞くためと自分の質問をしっかりと纏めるためだそうだ。

現物サンプルは無かったので、自分で作ってみた。そのサンプルを先日開催された「県下がん患者意見交換会」で提出して見た。いろんな意見が噴出して、次回の検討事項となった。

またアンサーパッドの使用についても面白かった。聞いてはいたが、実際に使ってみてこれは便利。色んなデータが即座に出てくる。傾向値が即座に見られて楽しい。がんサロンのなかでも使えたら楽しいのに。費用はいくらほどかかるのだろう。

来年もこの会は継続開催されるので今期患者プログラム企画委員にエントリーした。最後の挑戦になるかも知れない。なぜかと言えば来年のプログラムにこれまで開催してきた「がんサロン支援塾」の「12位1体」技法を取り入れたいと考えたからだ。今年も忙しくなる。健康のまま行動したいが行動範囲はどんどん狭くなる。東京行きの空港内は往復とも車椅子を使わせてもらったほど体調は今ひとつ。